

第3節 市民の生涯を通じた学習の振興

1

学習活動の充実と支援

心の豊かさや生きがいのための学習、新たな知識や技術の習得など、学習への市民のニーズは多種多様になってきており、市民の生活向上や自己の充実・啓発のため、各種生涯学習関係機関との連携の必要性が増してきている。

そこで、市立図書館、熊本博物館等の施設を活用し、市民のニーズに対応した多種多様な学習機会を提供し、学習の成果を豊かな地域づくりに生かせるシステムの構築を推進する。

(1) 市立図書館の充実

■ 第二次熊本市子ども読書活動推進計画

○ 策定の趣旨

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。

しかし、テレビやパソコン、携帯電話等の様々な情報機器の発達・普及などの生活環境の変化、更には、幼児期からの読書習慣の未形成などを背景とした「読書離れ」が指摘されている。

このような中、本市では、平成17年10月に「熊本市読書活動推進計画」を策定し、家庭、地域、学校、行政が連携協力しながら様々な取り組みを行ってきたが、第一次計画の期間が平成22年3月をもって満了となったことから、これまでの成果と課題を検証するとともに「熊本市第6次総合計画」や平成21年3月に策定した「熊本市生涯学習指針」等を踏まえた、「第二次熊本市子ども読書活動推進計画」を策定した。(計画期間：平成22年度～平成26年度の5年間)

○ 基本理念

本市では、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、関係機関、団体、事業者等が緊密に連携・協力しながら、積極的にそのための環境を整備し、豊かな感性や創造力、表現力などを備えた子どもをはぐくんでいく。

○ 基本方針

第一次計画の基本方針を継承した4つの基本方針のもと、子どもの読書活動を推進する。

・家庭、地域、学校における子どもの読書活動の推進

家庭をはじめ、地域や学校などにおいて、様々な機会をとらえ、読み聞かせや読書の時間など、継続的な読書活動の場をすることにより、子どもたちが自然に読書に親しむきっかけづくりと読書習慣の基礎づくりを進めていく。

【取り組みの例】

- ・「家族で読書」運動の展開
- ・市立図書館等での子ども向け行事の充実
- ・全校一斉読書活動等の充実 等
- ・学校図書館と市立図書館等の機能充実

市立図書館等の豊富な図書資料や人的資源を有効に活用するとともに、子どもたちにとって身近な読書活動の拠点となる学校図書館の機能強化により、子どもたちの豊かな読書環境を確保し

ていく。

【取り組みの例】

- ・図書資料の充実
- ・快適な読書スペースの確保
- ・ITを活用した情報提供
- ・くまもと森都心プラザ図書館の活用 等
- ・民間団体等との連携・協力による子どもの読書活動の推進

子どもの読書活動を推進している民間団体等と連携・協力し、地域活動のネットワークづくりに取り組むなど、市民協働による子どもの読書活動を進めていく。

【取り組みの例】

- ・地域のボランティアグループと連携・協力したおはなし会を市立図書館・公民館図書室などで実施
- ・団体への絵本や児童書の貸出
- ・各種ボランティア養成講座の開催 等
- ・子どもの読書活動の広報・啓発活動の推進

「子ども読書の日」や「読書週間」を中心とした読書推進事業や、子どもたちへの様々な機会を捉えた啓発活動の充実等を通じて、子どもから大人まで幅広い市民に対し読書活動への理解と協力を促していく。

【取り組みの例】

- ・市政だより等による情報提供
- ・「こどもの読書週間」にあわせた子ども向けイベントの開催 等

■ 子どもの読書環境の整備

子どもの「読書離れ」が指摘される中、平成14年度から市立図書館及び15公民館図書室と学校図書館で使うことが出来る共通利用図書カードの運用を始めたほか、16年度からは図書館の物流システムを開始するなど、学校図書館と連携した読書整備を進めている。この他、よみきかせに役立つ本を紹介する冊子「このほんよんで」を作成・配布するとともに、平成25年度までに同冊子に掲載する絵本を城南児童館ほか60箇所配架し、子どもの読書環境の整備に努めている。

■ ボランティアの育成

ボランティア活動に必要な基礎知識や技能、技術の習得のための講座を開催している。

< 図 書 館 >

※平成25年度実績

コース名	学習内容	日 時	場 所	受講者数
ボランティア養成講座・読み聞かせ入門講座(春)	地域等における子ども読書活動推進のため、絵本の選び方や持ち方など、読み聞かせの基礎知識や技術等について学ぶ講座	5/23～6/27 6回 木曜日 10:00～12:00	市立図書館	14
ボランティア養成講座・読み聞かせ入門講座(秋)		10/3～11/7 6回 木曜日 10:00～12:00		14
学校ボランティアのための読み聞かせ講座		9/26 木曜日 10:00～12:00		22
ボランティア養成講座 布絵本「おはよう・おやすみ」作り講座		10/30 水曜日 10:00～13:00		14
ボランティア養成講座・紙芝居の演じ方講座		11/21～12/5 3回 木曜日 10:00～12:00		19

■ 図書館資料の充実

○ 資料の選択・収集

一般書、児童書、参考資料、郷土・行政資料などの各分野の基本資料の収集はもとより社会経済情勢の繁華に即応しながら、地域の情報発信機関として図書館づくりを行っていく必要性から①産業能力開発支援関連資料②外国語資料③児童書④郷土・行政資料の4つの分野については重点的に収集している。

○ 資料の整理

閲覧室の開架は資料更新による新鮮度維持に努め、複本整理などにより除籍した資料はリサイクル図書として無償配布し、市民の読書活動に活用されている。また、資料の所在の把握と資料データの正確性を確認するための蔵書点検は毎年実施して資料の整理に努めている。

○ 資料の保存・継承

郷土、歴史、芸術、科学技術などの記録・資料は、後世に伝えて新しい文化の創造の糧にしていける役割があるとの観点から、資料の保存、継承に努めている。

■ 図書館サービスの拡充・強化

○ 視聴覚及び館外サービス

図書、雑誌、視聴覚資料を収集、整備して市民の利用に供しているほか、視聴覚資料の社会教育団体等への団体貸出、移動図書館による巡回貸出、学校・地域等への図書の団体貸出を行っている。また、植木図書館、城南図書館、くまもと森都心プラザ図書館、16カ所の公民館図書室や男女共同参画センターはあもにいとネットワークを組み、どこの図書館(室)でも貸出し、返却、予約図書の受取りなどができるように連絡調整を行いサービスの充実を図っている。

○ 資料・情報提供サービスの充実

図書館ホームページの開設やインターネットを活用した図書の検索・貸出予約・Webレファレンス事例集・SDI(キーワードを登録するとその資料の最新情報をメールでお知らせする)、

BDS（図書盗難防止装置）の設置、子どもカウンターの設置、図書資料の検索・貸出予約の実施など、サービスの拡充に努めている。

○ 利用者対象別サービスの充実

障がい者に対する図書の郵送貸出、高齢者に対する大活字本などの充実、外国人に対する館内案内板を英語併記に変更し、一般閲覧室と児童室に外国語コーナーを設置している。

○ 多様な学習機会の提供

市民の自主的、自発的は学習活動を支援するため、おはなし会、図書展、図書館講座、日曜映画会など自主事業を開催し、多様な学習機会の提供に努めている。

(平成25年度自主事業)

自主事業の内容	開催回数
読書啓発事業（おはなし会、お菓子作り、人形劇、パネルシアター作りなど）	141回
日曜映画会、子ども映画会、特別上映会、バリアフリー映画会	66回
図書展	4回
童話コンクール	1回
読書感想文コンクール	1回
図書館講座	9回
ボランティア養成講座	5講座
リサイクル図書配布	通年



「親子で遊ぼう！絵本の世界」の様子

■ 推進体制の充実

○ 広報活動の充実

市民の図書館に対する理解と関心を高め、新たな利用者の拡大を図るため広報誌等定期的な刊行や図書館ホームページの内容拡充、地域情報誌による図書館活動PRなどの広報活動の強化、情報提供機能や内容の充実に努めている。

○ 推進組織の充実

予算とサービス、施設管理等を行う総務班、企画・調整等を行う企画班、市全体の図書資料の選書等を行う図書資料管理班、館内・館外サービス等を行う総合サービス班の4班体制により、図書館業務の効率化と市民サービスの向上に努めている。

(2) 熊本博物館の充実

展示活動、教育普及活動、資料の収集保存及び調査研究、プラネタリウムの投映等を行い、市民の利用に供している。子どもたちの体験活動やものをつくる喜びを体験する機会を充実させるとともに、市民の問い合わせに応じて相談業務なども行っている。

■ プラネタリウム

平成25年7月から休止していたが、平成26年4月から一時再開

- ・規模 ドーム直径16m 180席
- ・機器構成 光学式投映機
全天デジタル映像システム



■ 子ども科学・ものづくり教室等

毎月1回を基本に、青少年に楽しく活動しながら科学の不思議や、ものを作る喜びを体験してもらうため、学校休業日や夏休みなどを利用して「子ども科学・ものづくり教室」を実施している。

平成25年度は休館のため、会場を塚原歴史民俗資料館に移して行った。平成26年度は博物館特別展示室と塚原歴史民俗資料館の2会場で開催している。

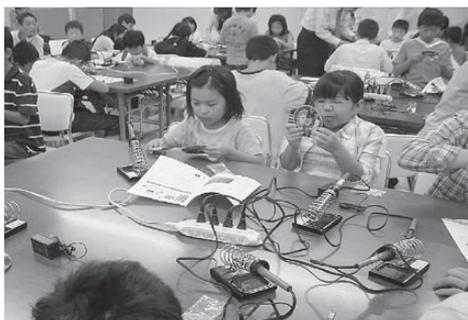
また、インターネット等を通じて収蔵資料の検索、イベント情報等の提供を行っている。

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
子ども科学・ものづくり教室参加者	4,820人	3,922人	4,443人	11,083人	374人

(※25年度は塚原歴史民俗資料館にて事前申込による「定員制」で行った。自由参加は1回のみ。)

平成25年度各種講座・教室及び館外活動

	行事名	内容
講座・教室等	各種講座	歴史民俗資料館ふるさと教室 等
	天文教室	プラネタリウムで星座や天文現象等の解説を行う
	指導者講習会	教師を対象に理科・社会の現地研修を行う。



子ども科学・ものづくり教室



自由研究相談会

■ 展示会（特別展・企画展）

平成25年度は、リニューアルの準備のため実施せず。

■ 定例展・共催展

平成25年度は、リニューアルの準備のため開催なし。

共催展の中で定例的なものは次のとおりである。

○肥後朝顔展 ○市科学展 ○肥後しゃくやく展 ○県科学展・発明工夫展

■ 移動博物館

館外展示を行うことで、多くの児童・生徒に博物館資料に触れてもらうことを目的に平成10年度から実施しており、毎年2校程度で開催している。平成25年度は、リニューアルの準備のため実施せず。平成26年度も実施の予定はない。

■ 学校教育支援事業（平成26年度はモデル的に実施）

博物館が有する価値ある収蔵資料や学芸員の専門的な知識・技能を、学校での学習指導（授業）に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力を高めることを目指すもので、主に小学校の社会科や理科の授業に学芸員をゲストティーチャーとして派遣する。

平成26～27年度は小学校2校（モデル校）に協力を依頼し、効果の検証を行う。

この事業で活用する冊子「博物館利用の手引き：2014」は、モデル校以外においても授業改善の一助になるものと考え、平成26年6月末に熊本市内の全小中学校に配布。

■ 塚原歴史民俗資料館

古文書・考古学の通年の講座の他、拓本・土器修復などのバックヤード体験講座、子どもを対象とした勾玉づくりや巴形銅器のレプリカ作り、原始機を使った織物作り等の体験教室の充実を図っている。

(3) 社会教育関係団体への活動の支援

青少年育成団体の活動の活性化を図るため、運営費の一部助成や指導を行っている。

熊本市PTA協議会（構成団体：137単位PTA）

(4) 熊本市・サンアントニオ市交換留学生（高校生）派遣及び受入事業

熊本市の高校生をサンアントニオ市に派遣、またサンアントニオ市の高校生を熊本市に受入することにより、生徒間の国際理解を促進するとともに、国際社会に貢献できる人材の育成と両市民の友好親善並びに相互理解を進める。

【派遣】

期 間：平成26年8月から10ヶ月以内

対 象：熊本市立必由館高校から2人、熊本千原台高校から2人

留 学 先：セントアンソニーカトリック高校へ2人、インターネットワーク高校へ2人

事業開始：平成4年度

【受入】

期 間：平成26年7月から平成26年11月

対 象：インターネットワード高校から1人、セントアンソニーカトリック高校から3人

留 学 先：熊本市立必由館高校へ2人、熊本千原台高校へ2人

事業開始：平成4年度